

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適応	無料低額診療事業の適応	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	一部負担金等	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
1	60代	男	年金受給者	独居	借家・アパート	退職者国保		無し	無し	2012.07.09	中断	2012.07.31	病死(肺癌)	2012年7月9日救急搬送時はいそう著明で、清潔面でも保持されていない状態。2012年1月までタクシー運転手だったが、健診で指摘されて退職。年金(6万円/2ヵ月)と貯金で生活していたが、搬送時点で貯金はなくなったと話していた。	0円	最後まで入院拒否していたが説得して入院。同時に生保申請をした。		生活保護が決定する前に死亡となったが入院費は医療扶助対応となった。
2	70代	女	無職	二世帯同居 本人と息子の2人	持ち家	国保		無し	無し	2012.11.09	その他(通院歴・他院受診無し・他院受診・緊急外来受診→入院→死亡)	2012.12.14	病死(子宮癌・多発肺転移)	古美術商を営んでいたが、夫が亡くなり実質的に店は開けられていない。夫が亡くなってから次男と二人暮らしで本人の年金月4万円と、妹が時々支援してくれる分まで生活。2012年10月から胸痛・下肢痛があったが、お金無く受診せず。11月に入り、歩けなくなり救急外来受診となった。	0円	11月9日救急外来受診時に貧困状態にあるとのことでご本人12月14日死亡にて本人への関わり終了。	11月9日受診日当日に、生活保護申請し決定。ご本人が死亡して次男はひきつづき受給している。	
3	60代	男	無職	独居	借家・アパート	国保		無し	無し	2012.05.16	中断	2012.05.16	病死(肝硬変・肝不全)	出稼ぎで他県に行っていたが、55歳で退職。その後は無職。無収入にて貯金を切り崩して生活していた。もともと肝臓病にて治療していたが、2012年1月に入院治療したのを最後に中断していた。自宅で倒れているのを発見され病院に運ばれたが既に末期の状態とのことで、疎遠になっていた兄に連絡あり、状態を聞いた兄はすぐに地元に来て連絡を断ればと考え、転院相談にいらっしゃり数日後転院となる。	0円	出身地での国保加入と限度額適用認定証の発行手続きをするよう説明し手続きしてもらった。死亡時葬儀を安く済ませたいとのこと、いくつかの葬儀屋に料金確認し情報提供を行った。	転院後15日で死亡。	生活保護の申請も検討したが、その前に死亡退院となってしまった。
4	60代	女	無職	夫婦と成年子世帯 内縁夫(68歳・無年金)・長男(39歳・飲食店勤務)と三人暮らし。	借家・アパート	国保	生国保生活保護1年12月28日	無し	無し	2011.12.28	中断(他院)	2012.8.23	病死(肝硬変・急性呼吸不全)	2年前に夫退職後より、経済困難状態。長男飲食店勤務。長男より2~3万円のお金が入っていたが、1年前よりお金渡されないうつ状態になった。入院歴3回あり、3ヶ月前より、入院を勧められていたが、経済困難で受診できず。経済的にも病状的にも苦しくなり、市に本人達が相談。市役所CWが12/26に自宅訪問。世帯主は長男で、収入ある為、長男申請でないと受付できないと判断された。病状不安定の為、担当包括と長寿支援課に連絡が入り、12/27に双方で訪問した。皮膚も荒れ、呼吸も苦しそう、劣悪環境にあり、病状的にも入院が必要な状態と感じられ、救急車で受診を勧めた状態だった。		11年12月28日入院後、腹水・呼吸不全・肝硬変の治療・リハビリを行い、12年2月16日老人保健施設へ退院。3月18日老健から意識消失にて当院入院。肝性脳症の治療を行い、4月7日夫との二人暮らしに戻る。退院後は1ヶ月毎に当院内科外来受診されていた。8月22日急性呼吸不全にて救急搬送され、翌日当院にてお亡くなりになる。	11年12月28日に当院入院時から生活保護受給となる。	
5	60代	女	無職	一人親世帯 本人・次男(無職・病弱)・三男(派遣)と三人暮らし。夫・長男は死亡。	借家・アパート	国保	国保生活保護2年4月16日	無し	無し	2009.6.22	治療中(自院)	2012.4.24	病死(門脈閉塞症)	慢性肝炎による胆道狭窄術後、十二指腸狭窄による胃空腸吻合後などにて内科入院や外科外来通院されていた。11年11月内科入院時支払いの件で相談あり、それまでの入院費等の未集金が60万あった。本人年金月3・5万円、次男無収入、三男は月16・7万程度の収入、家賃は月6万1千円。生活でギリギリで医療にお金が回らない状況だった。	60万円	肝炎及び術後癒着のために門脈が巻き込まれ完全閉塞し、難治性腹水を併発。門脈内ステント留置や血行改善術を行う必要があったが、当院で対応できる処置ではなく、大学病院に転院必要だったが、経済的問題あり、紹介できない状況が続いた。11年11月から生活保護申請を本人・家族に勧めたが、三男が生活保護申請に反対し、申請にすぐに結びつかなかった。	12年4月になり、三男が家を出ることになり、本人・次男で4月16日生活保護申請、4月23日大学病院転院の予定が決まったが、4月24日状態悪化され当院にてお亡くなりになった。	
6	60代	男	無職	夫婦と成年子世帯 妻(72歳主婦)・長男(40歳大工)と三人暮らし。	持ち家	国保		無し	無し	2011.11.7	中断(自院)	2012.10.12	病死(肝細胞癌)	11年7月以降消化器外来受診されていたが、3月に中断。8月29日に外来受診された時は病状進み末期の状態。受診時SWが話を聞くと言費にお金が回せず受診できなかった。家で看取ろうと思っている。生活保護申請をSWが再三勧めていたが、「税金の相談をした時に役所職員にひどい対応をされた。役所には世話になら無い。」と長男。役所への不信は払拭できず、生活保護申請には至らなかった。	0円	8月29日は外来受診のみで帰宅。SWが往診・訪問看護調整を進めたが、結局家族が「まだ必要無い。」と利用に結びつかず。9月27日救急搬送。家で最期を迎えたい、家で看たいという本人・家族の意向あり、往診・訪問看護の調整をし、10月5日退院。	10月12日にご自宅で御亡くなりになられる。	
7	60代	男	その他(無年金・貯金無し)	詳細不明	独居	退職者国保		無し	無し	2012.4.27	中断(他院)	2012.6.13	病死(慢性腎不全)	当院への受診歴なし、4/27マンションの共同廊下で倒れている所を近隣住民が発見、救急搬送。搬入時は心臓停止状態だったが、処置後蘇生した。高親死亡、従兄弟(父の兄弟の息子)・妹(父の兄弟の嫁、戸籍上嫁になっている)が近隣市に住んでいたが、病前からは関わりなく、生活状況不明、収入は不明、貯金は50万円通帳に記載されている。との従兄弟情報だったので、即生活保護申請ではない事例とした。		受診歴なく、家にあった薬袋から前尿をみつけ、情報提供依頼したところ、20年来の糖尿病・高血圧あり、2・3年前から中断がら、H23年に透析の話を勧めたが、以降中断との情報だった。5月18日不動産会社から連絡あり(本人のマンションを競売で落札した)、屋内のお金(本人母のもの)を処分して欲しいと連絡あり、負債が相当額あったらしいことが判明。貯金もおろせなくなっていた。収入・貯金も無いということで生活保護申請した。	生活保護受給は決定したが、6月13日院内にて死亡された。搬送時からお亡くなりになるまで意識状態は改善せず。本人からの聞き取りはできなかった。	

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	保険の推移	国保法44条にもとづく減免適用	無料低額診療事業の適用	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	一部負担金未納	事業所とのかかわり	結果(葬儀)	自治体の生活保護対応など
8	60代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	国保	建設国保→生保	無し	無し	2012.10.18	治療中(他院)	2012.11.25	病死(急性胸膜炎)	嘔気あり診療所受診、病院にてFGSL、右胸水認め入院。所持金少なく、入院拒否、体調不良自覚していたが、仕事休めないこと、収入少ないため受診を我慢していた。電気記録関係、仕事依頼が来たら働ける。約30年前離婚、その後連絡していない、30代で大手企業に勤めたこともあり、資格持っていない、収入得る上では役に立たない。	0円	仕事休めないとの理由で初回入院は3日間、退院後3日目で状態悪く救急外来受診。帰宅後生保申請を始める。生保にも一報いれ、自宅訪問してもらい申請手続き、お金の心配なくなったから「治療したい」と発言に変化あり。約1週間後入院。生保担当CWIにも来院してもらい、本人面談、親族捜し依頼。	ステロイド投与するが死亡。親族は見つからず。	入院日に生保相談。出張面接依頼。すぐには出張面接しないとの判断。理由は翌月10日に給料入るため、生保とならない可能性があるからとのこと。
9	60代	男	非正規雇用	独居	借家・アパート	国保	不明	無し	不明	2012.10.03	その他(入院先で永眠)	2012.12.13	病死(肝臓癌)	初診より1年前から口渇・手足の痺れ・倦怠感。そのころ激やせ。味覚鈍麻や下肢浮腫などが出現し糖尿病が心配になって受診。42歳から写真屋(自営)で健診はほとんど受けていなかった。受診時は週3回非常勤の夜勤。食事は自炊。	0円	通りがかりで受診。それまで一度も利用したことなし。	即日検査でインスリン導入レベルの糖尿病と判明。即入院を勧められるも金銭的な理由で拒否。無料低額診療についても説明したが、入院したら仕事がなくなってしまつと不安を訴える。その後1ヶ月は外来にて点滴とインスリン注射。その間入院は一貫して拒否。11/8背部痛で来院。11/10整形外科にて変形性胸椎症を指摘。ようやく入院に同意し11/27から病院へ入院決定。11/16肝機能悪化顕著・黄疸出現にて入院を11/21に早めた。入院後の精査で末期の肝臓がんと判明。12/13に永眠。	
10	70代	男	年金受給者	独居	その他	国保		無し	無し	2012.01.30	その他(受診無し)	2012.02.07	病死(細菌性肺炎)	妻はいるものの、同居せず、5年前からホームレス生活をしてきた。年金は10万円ほどあり、その中で生活。体調を悪くても「大丈夫」と受診されず。国保証は発行されていたが、本人の手元に届かず、無保険だと思っていた様子。	0円	夜回りの会の援助にて受診。インフルエンザ発症後の細菌性肺炎をこじらし重症化、呼吸不全重症化し死亡。	自治体に国保加入状況確認し、その後別居していた妻とも連絡がつかず、死亡時対応と医療費の支払いを含めて対応を行うことができた。	
11	80代	女	年金受給者	一人親世帯 高齢の母と障害のある息子	持ち家	後期高齢者医療		無し	有り	2012.05.16	中断	2012.05.31	病死(心不全)	市の高齢者センター(直営包括)から、医療費が困難で治療を拒んで動けなくなっている人がいる。家族に無料低額制度の説明をしてほしいと連絡あり。同行訪問した。本人の年金、不動産の収入月10万円から暮らしているが、税金滞納、借金があり生活は困難していた。入院の必要をかかりつけ医に言われていたが、医療費と自宅に一人残る息子の食事の世話を気にして拒んでいた。	？(他の病院には未納金有り)	5月16日に自宅訪問、本人及び息子が無料低額での受診を了解する。浮腫がひどいためその日のうちに当院を受診したが、救急病院での早急な治療が必要と判断され、同じ無料低額のセンター病院に救急車で搬送した。	搬送先病院で治療を行ったが、5月31日死亡された。	本人死亡後、障害のある息子一人となつてから、兄弟を窓口にして生活保護を開始し、借金・不動産の処理も援助した。
12	80代	男	非正規雇用	夫婦のみ	持ち家	後期高齢者医療		無し	無し	2012.03.02	その他(健診のみの開わりでその後の受診勧めるも放置)	2012.06.09	病死(肝細胞癌)	用途不明だが年金担保の借入200万円と固定資産税など230万円の税滞納あり。高齢でもタクシー運転手をしており給与収入はあるが、妻が心疾患で長く他院通院治療中で医療費がかかる。本人は2012年2月に骨折して整形外科入院。その月は19,000円しか収入がなく、体調不良だったが我慢していた。1人娘は認知症の義理の親の介護あり頼れず。	0円	2006年より毎年企業健診を受け、その都度、石綿関連の胸膜肥厚、糖尿病、高血圧、尿蛋白、肝機能値上昇など異常所見あり、受診を勧めてきたが放置された。2012年3月2日に便秘と腹部膨満感で初めて受診。腹部CTで肝臓に巨大腫瘍あり、悪性のものかもと説明し入院精査を勧めたが拒否。事務主任が左記の経済状況を聞き取り。	下剤のみ求め一度再診したが、その後来院なく、自宅訪問や電話かけなどアプローチするが夫婦とも聞かないのかつながらず。3月28日によりやく妻と電話での対話ができ、妻を通して受診を勧め、3月31日に夫婦で来院。発熱、全身浮腫、貧血、呼吸苦あり。医師の勧めによりやく納得し、希望で総合病院に紹介した。肝細胞がんであり、巨大化し肝臓に亀裂を生じ出血あり。個室に入っているということだったが、紹介先の病院に経済困難である旨を伝え、配慮を依頼した。6月9日出血性十二指腸潰瘍による大量下血で死亡。入院中より介護に来ていた娘さんとその後話す機会があり、感謝のこぼをいただき、自宅は売り転居して妻1人で暮らしていることなど伺った。	
13	60代	男	非正規雇用	夫婦のみ	公営団地	協会けんぽ		有り 生活保護基準上回っており、生保基準の120%以下で自己負担分全額免除の対象になった。	無し	2011.08.19	定期的な通院歴はなし。健診4年ほど受けていなかった。	2012.09.18	病死(胃癌)	本人・妻が新聞記事の無料低額診療事業を知って相談室来室。本人はタクシー運転手で社会保険加入しているが、歩合制で収入はいい時は10万だが、直近は月2、3万。妻は地域の消化器内科医院で掃除員をしており、腹痛で医院で受診し早急に大きな病院に行くように言われた。妻収入7万円。本人の年金月3万円。本人は若いころからギャンブルなどで定職につかず、妻が家計を支えてきた。8年前ほどに自己破産歴あり貯金も借金もない。息子・娘がいるが結婚し家庭がありこれ以上迷惑はかけられない。兄妹は兄は単身で生保受給。異外に妹おり車を貸してくれている。無料低額診療の対象となった。	0円	受診後進行胃癌、大腸癌、転移性肝癌と診断される。胃全摘手術施行。化学療法施行するが、副作用強く食事とれず施行できず。仕事復帰は困難で傷病手当金支給されるようになった。手当金は月55,000円支給される。生保基準上回っていた。	化学療法施行できず、経過フォローし、食事もうまくとれず治療の甲斐なく1年ほどで亡くなった。	
14	70代	男	非正規雇用	独居	借家	後期高齢者医療		無し	不明	2012.09.13	治療中	2012.10.04	病死(重症肺炎)	2011年6月まで妻の年金で生活。妻の死を機に、本人無年金・無収入のため工事現場で働く。生保申請しようとするも兄弟の存在を理由に断られた。しかし、兄弟も共に70代で余裕なく、頼れず。大腸がんの加療中であり、体力的に調理できず、食事を抜くことも多かった。予防接種に来院した折、重症肺炎に気づき入院となった。	0円	かかりつけ医として外来定期受診されていた。外来診察時に医師により生活状況に気づかれ、相談員の介入を開始したところであった。包括支援センターなどとの連携をはかり、生活の立て直しを目指していた。	入院後、肺炎が更に悪化し逝去された。	妻が亡くなった時点で本人が申請しようとした際は、高齢でも兄弟がいることを理由に断られた。今回は相談員介入し、手持ち金がある程度消費したところで申請の段取りを保護担当者にはかっている最中であった。

事例NO	年齢代	性別	職業	家族構成(詳細)	住居	保険	国保法44条にもとづく減免適用	無料低額診療事業の適用	初診日	通院状況	死亡日	死因	事例(受診に至る経緯、職歴、世帯収入の経過)	一部給付金未納額	事業所とのかかわり	結果(帰結)	自治体の生活保護対応など
15	60代	女	無職	夫婦のみ世帯 離婚した夫と同居。元夫は短期雇用労働者	借家・アパート	国保	無し	有り 初診時に無償申請されたが、本人は年金月2.5万、元夫の月給14万円、夫の収入証明がなく当初支払い保留で対応(後に現金支払い、明細書を出したことが判明)。元夫が1月末に高血圧を患ったため無料低額を認定。	2011.10.15	その他(痛みはあったが受診せず)	2012.05.13	病死(肺癌)	2011年10月15日社協の紹介で来院し無料低額申請。3月でパートをやめて年金月3万円。元夫の月収は約16万円だが短期雇用で不安定。年内に雇用期間が切れる可能性あり。7月に年金担保の借金を15ヶ月分した。約1ヶ月前から右肩～右腰部の痛みがあったがお金がなく受診せず。3kg体重減少と血痰あり。	15260円	初診時に無料低額を申請されたが元夫の収入明細を持参せず一時保留。結核や肺がんを疑い血液検査後、病院に紹介したが検査を延期された。お金が心配とのことだったので、他自治体の無料低額診療実施病院へ再度紹介。12月検査に未受診のため病院から連絡あり。本人に確認するが「お金がなく不安」と。繰り返しお金の心配は不要と伝えたが、1月初旬、中旬と検査延期された。1月下旬に元夫が入院したと連絡あり。収入が途切れたため2月中旬に生保申請同行。亡母の名義土地所有や賃貸契約書等の材料不備で相談のみ。退院した元夫とともに書類を揃えて3月に再度申請同行し、生保承認された。元夫の収入確認ができなかったのは、給与明細がもらえず現金渡しで、事業所に申し出てもらってももらえなかったと。金額のバラツキがあっても許けてもらえず。	2月末病院で検査し、肺がん病名確定。3月生保取得し、4月下旬に病院へ入院したが入院生活が苦痛で5月初旬自己退院。元夫からあまりの痩せ方と食欲不振のため相談を受け、往診したが、その1週間後に永眠された。	10年ほど前に出身地で生保受給歴あり。転居等で廃止。約1年前に生保相談したが亡母名義の土地の件や元夫の就労指導等で相談のみ。2月申請時は本人と職員が同行。肺がん疑いの診断書を持参したこともあり、申請に必要な書類の準備について話ができた。元夫は以前の相談時に働けばいいと言われてたと言われたと今回の申請にも抵抗を示したが、妻の治療優先と申請には同意。書類を揃えるに時間がかかったが3月申請時は夫婦とも職員と同行し、大きな混乱はなかった。後日、夫の弟に扶養調査の通知がいき「扶養義務があること、財産差し押さえがあること」の記載があり不安に感じていると相談があったが、扶養できない旨の返答を指示した。生保申請は承認された。
16	70代	男	無職	夫婦と成年子世帯	後期高齢者医療 持ち家	無し	無し	無し	2011.08.24	治療中(他院)	2012.04.24	その他(無理心中)	2011年7月25日、市の肺癌検診にて指摘受け、8月24日精査目的で当院内科受診。肺癌に対するイレッサ導入目的で当院内科病棟に入院した。	0円	入院中医療費相談あり介入するが、限度額認定証の確認だけになってしまい、支援を要する要因を残したまま集結してしまっただ。	退院後イレッサ治療が行われた。限度額認定証(区分・低II)を所持していたが、当時外来医療費については限度額認定証が適用されなかったため、一ヶ月あたり約2万4000円が外来薬局で請求された。	
17	40代	男	無職	兄と二人暮らし	その他(県営住宅)	国保	有り	不明	2011.05.12	中断	2012.05.05	病死(急性呼吸不全)	糖尿病治療中断。2011年以前他院治療中断されていた。2011年5月肩に巨大嚢腫形成し、当院入院。勤務先倒産による失職(飲食店での調理師)、雇用保険受給されており、このときは国保減免も対象外。退院後治療中断。2012年4月24日救急来院、入院。兄の収入10万円で生活されていた。入院3日後生活保護申請、その間は国保44条申請。本人は5月5日に死亡。44条も生保も本人死亡後に決定。2011年退院後仕事はできていなかった。	75700円	2011年入院が初診、その後中断、2012年4月久々に受診、入院初診で救急来院。	本人死亡後生活保護決定、国保44条も決定。兄も少ない収入で生活は厳しかった。3日分の(生保申請するまでの減免期間中)食事代、おむつ代請求発生。2011年に入院された時は一人世帯で雇用保険あり、減免も対象にならず、1万円のみ支払い、以後未収。心苦しさもあるのだろう、中断し、連絡しても連絡が取れない状態となっていた。次に来院されたのが一年後、入院となり10日ほどで死亡された。	早急に対応していただいた。GWをはさんだが、4月27日申請し、5月6日には決定した。
18	60代	女	無職	夫婦のみ 経済苦で離婚予定。別居していた。	借家・アパート	国保	有り	有り 産婦人科一歳児が経済的困窮のため本人受診控えているという事で、内科で自宅訪問する。その日の夕方、本人(夫)来院。生活保護申請の準備を進めているが、今日の診療費が困るとの訴え。身体的に待つような状態で無いと説明し、無償診療申請し受診。	2011.11.29	治療中	2012.02.14	病死(肺癌)	夫が自営業していたが不況で経済困窮に。親族より借金が暮らしていた。経済苦もあり離婚予定で別居を始め一ヶ月したところであった。体調不良もあり、生活保護の申請準備をしていた。(離婚後申請できる予定だったとのこと。)近医に月一回高血圧で受診して薬をもらいに行っていたが、病状を訴えると検査になり費用がかかるということ言わず、高血圧の薬のみもっていた。当院へは体調不良で受診。病歴としてC型肝炎インターフェロン治療していたものの経済苦のため途中でやめた経験あり。		当院へは体調不良で受診。腫瘍マーカー値高値のため受診促すも経済困窮のためいけなと言われ、内科看護師が自宅訪問。会えなかったがそれきっかけに病院へ相談に来る。同日受診。入院するも生活保護申請終わってから入院すると帰られる。外来で検査する時。12月6日生活保護申請。12月8日入院。この時点で午後3か月前の診断。	12月21日一度退院。在宅生活送るも1月18日当院のホスピス緩和ケア病棟入院。2月14日死亡。	本人さんの話では、生活保護申請時の自宅訪問面接にて液晶テレビ(32型)があることを「生活保護をもらうにはそく無い贅沢品だ」と言われたことや、面談終了後帰るときに靴下をはらって靴を履いて帰ったことがとても屈辱的だったと涙ながらに訴えていた。
19	60代	男	自営業	独居	その他	協会のけんぽ	有り	無し	2012.03.14		2012.07.16	病死(肺癌)	高校中退し、大工、とび職。45歳にタクシー会社勤務。以降、三カ所のタクシー会社を転職するが、入院前のタクシー会社は10年勤務。会社の寮に住み、独居。離婚をして娘もいたが音信不通。寮で足が立たないと上司に相談があって、当院に救急搬送され入院。職場健診は毎年5月に行われていたが、異常見つからず、受診も全くしていなかった。	0円	入院時から手遅れ受診であったこと、身寄りが無いことから、タクシー会社営業所所長がMSWIに療養上のことで相談があった。入院費については、傷病手当金が入って支払うことで、手続きはその所長が全て行ってくれた。呼吸器専門のDr.がいる病院との転院が繰り返され、途中で抗がん剤治療を中止になって、最後は当院で看取りすることになった。	入院から3か月に退職になり、社保から国保に切り替えた。同時に収入が3割減少、生活保護基準120%以下に該当するので、国保加入と同時に国保一部負担金減免申請措置を行った。利用は亡くなるまでの2か月だけであったが、生活保護が必要だったのは最後の葬祭扶助のみとなった。	